

た。

サガハタカナガ 佐川高長 通稱出雲。織田信雄の次子。關ヶ原戦後流浪して加賀に來り、佐川氏を冒し、前田利常から四千五百石を賜はつて人持組に列し、富田重政の女を室とした。後大坂兩役に従ひ、利常の吹擧によつて二萬石を受け、丹波柏原に封ぜられた。

サガハタダスケ 佐川忠亮 通稱次郎兵衛。寛永三年前田利常に仕へて百石を受け、後利治に隸し大聖寺に赴き、慶安四年五十石を増し、萬治三年金澤に歸つて定番御馬廻に列し、寛文四年歿。子孫相繼いで藩に仕へた。

サカハヨリチカ 酒匂頼親 鹿島郡永光寺に記に『境内山林者、開基之檀那當國中川之地頭酒匂八郎頼親之嫡女法名祖忍、夫信州雲野三郎滋野信直共ニ、文保元年鎌倉に相訴、安堵之下文を受、自文之寄進狀を相添、被奉瑩山和尚』とある。頼親は羽咋郡中川村の人である。

サカヒ 塚 鳳至郡谷内の内の小字。

サカヒガハ 境川 鹿島郡酒井永光寺の西谷から發し、寺境を経て邑知湯に注ぐ。

サカヒガハ 境川 鹿島郡佐野領むね平から流出で、佐味の海に入る。流程三程餘。

サカヒセキシヨ 境關所 越中新川郡の領界の關所である。以前からあつたものであるが、天正十三年に確實に關所と稱することになつた。境が町であるか將た村であるかに就いては、藩政中に穿鑿したこともあるが決しなかつた。

サカヒセキシヨサダメガキ 境關所定書 一冊。越中新川郡境關所の定書で、寛文十一年六月六日附のもの外數種が載せてある。

サカヒフギヨウ 境奉行 越中新川郡境の關所奉行である。早く前田利長の時長谷川宗左衛門その子長谷川宗十郎などが勤めたといふが、その年月は不明である。萬治二年渡邊八右衛門が命ぜられてから一人役となり、爾後馬廻組の士にして高知なるもの交代して之に任せられた。

サカヒベエ 境兵衛 羽咋郡大島の百姓で天正十一年前田利家の宿泊する所となり、十七年九月その居屋敷四斗三升四合の地を賜はり、文祿二年には兵糧百八十石及び武具等を積載したる船を大島浦より發し、嫡子次郎太夫之上乗となつて、肥前名護屋の利家の陣所に送致した。

サカヒミヨウジン 境明神 石川郡にあつた。白山記の佐羅宮の條に、『又有二社一名境明神』とあるので、佐羅の末社であると思はれるが、その位置は明らかでない。しかし式内等舊社記に、『境明神社。河内庄吉岡村小豆澤鎮座。舊社也。』とあるから、それかも知れない。この社ならば今は八幡神社と稱するものである。

サカミ 酒見 羽咋郡富木院に屬する部落。承久三年注進の能登國田數目録に、『富來院内酒見村、貳町八段壹、建保三年立券狀』と見える。同田數目録解に、『今も酒見村あり。富木院に隸す。酒見は酒看部氏の居りし所か。』というてゐる。

サカミガハ 酒見川 源を羽咋郡・鳳至郡の境なる高爪山に發し、南流して酒見に至り、その河口に近づくに及び、高塚山の西南麓に源を有する栢木川を合はせ、酒見の南方から海に注ぐ。流程一〇軒。

サガリイシ 下石 羽咋郡邑知院内志雄庄にある部落。

サカキ 酒井 鹿島郡酒井保に屬する部落。酒井の名は、羽咋郡の境界に近いから境の語を二字にしたものと思はれる。能登名跡志に、『酒井村は二村になり、永光寺の門前は寺酒井といふ。』とあつて、本文の寺酒井は今寺境と書かれる。酒井には馬場権と稱する古木があつて、天然記念物に指定せられてゐる。

サカキイツチヨウ 坂井一調 ↓ネナシグサ 根無艸。
サカキガハ 酒井川 鹿島郡酒井の東南山中から出で、酒井を経て邑知湯に入る。
サカキカンリユウ 酒井寛隆 鹿島郡澤野眞宗東派眞證寺十六代の住持。寮司に任せられ、その著は多く講林と題せられる。易行品講林一枚起請文講林の如き是である。明治九年一月二十七日寂、享年五十九。法號不退院惠觀。

サカキゴロベエ 坂井五郎兵衛 慶長十九年前田利常に仕へ、二百石を領して御馬廻に班した。その本宗は六代佐仲茂泰に至つて、文化九年知行を召放された。
サカキサダノブ 酒井定陳 通稱庄兵衛、又少兵衛に作る。勤兵衛忠久の子。定陳は稻富・田附・田布施三家の統術を受けて精妙の城に達し、後一派を建てた。今世酒井流と稱したものは是である。元和四年前田利常之に祿百石を興へ、その小松に老するに及びて亦之に従ひ、遂に大聖寺侯前田利治の臣となつて二百石を受けた。定陳致仕の後怡雲齋と號し、寛文六年九月金澤に歿した。その長子七兵衛は大聖寺に、次子三之佑は金澤に仕へた。

サカキシゲタカ 坂井茂喬 大聖寺藩士。通稱彌次郎。字は子木、梅屋と號した。安永三年生。寛政八年三月家を襲ぎ、天保十一年學問所の會頭示談相手を命ぜられ、弘化四年正月七十四歳を以て歿した。茂喬學に通じ、特に詩才があつて、梅屋詩集を遺した。

サカキシゲトモ 坂井茂朝 通稱宅次郎。新左衛門。延享四年養父知右衛門茂行の祿百二十石を襲いで定番御馬廻に列し、寶曆六年町同心となり、安永九年五十石を加へて奥御納戸奉行に任じ、天明五年百石を増して組外番頭に任じ、寛政二年御免、三年十月二日歿した。

サカキシゲヤス 坂井茂泰 通稱宅次郎。佐仲。祿二百七十石。文化八年十一月廿九日亂心して自殺を仕損じ、九年四月知行を召放されて十人扶持を賜はつた。

サカキジユアン 坂井就安 小瀬甫庵の長男で、十七歳の時坂井下總の増養子となり、氏を坂井と改めた。初め堀尾帶刀に仕へ、帶刀の歿後致仕し、元和元年加賀に來り、前田利常に仕へて二百石を受けた。金澤の犀川の二水を一流に落し、その中島に町を建て、河原町としたのも亦就安の功績であるといはれる。寛永十五年七月二十九日歿。

サカイジュアン 坂井就安 初代就安の子。遺知二百石を襲ぎ、元祿八年歿。
サカキタイジュン 坂井泰順 二代目就安の子。新知二百石を受け、元祿元年父に先だつて歿した。加能所産藥草考の著がある。

サカキトモナホ 坂井友直 通稱權太夫。甚右衛門。享保二年養父左衛門直仍の遺知三百石を襲ぎ、大小將に列し、會所奉行に任